

令和2年度 袖ヶ浦市立図書館サービス状況 点検・評価

「袖ヶ浦市第3次図書館サービス網計画（後期）」〈5〉サービス目標 より

“「図書館は、そのサービス水準の向上を図り、図書館の目的及び社会的使命を達成するため「数値目標」を設定し、各年度の図書館サービスの状況について、図書館協議会の協力を得つつ、「数値目標」の達成状況等に関し自ら点検及び評価を行うとともに、その結果を市民に公表するように努めます。”

評価基準

- 4：計画どおりに実施でき、一定以上の成果があった。達成率 100%以上
- 3：計画どおりに実施でき、一定の成果があった。達成率 80%以上
- 2：課題はあるものの、概ね計画どおり実施できた。達成率 60%以上 80%未満
- 1：不十分な点や課題が多く、計画どおりに実施できなかった。達成率 60%未満
- N：新型コロナウイルス感染症の影響で達成度に「－」が多く（1施策につき半数以上）、評価不能である。

令和3年9月
袖ヶ浦市立中央図書館

◎令和2年度袖ヶ浦市立図書館サービス状況点検・評価の評価方法について

袖ヶ浦市立図書館は令和2年度に294日の開館を予定していたが、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の発出等により、令和2年3月25日から5月31日及び令和3年1月22日から3月21日を臨時休館（合計95日）とし、年間の開館日数は199日にとどまった。

開館時にも感染症予防対策として館内の滞在時間を2時間以内とし、館内ビデオ視聴など一部のサービスを制限したほか、読書普及事業の募集人数や実施回数を減らしたり予防対策を講じることが困難な一部の事業は開催を見合わせるなど、年間を通じて図書館サービスの遂行に多大な影響があったことを考慮し、以下のような方法で令和2年度の点検・評価を行った。

1 評価基準

- | |
|--|
| 4：計画どおりに実施でき、一定以上の成果があった。達成率 100%以上 |
| 3：計画どおりに実施でき、一定の成果があった。達成率 80%以上 |
| 2：課題はあるものの、概ね計画どおり実施できた。達成率 60%以上 80%未満 |
| 1：不十分な点や課題が多く、計画どおりに実施できなかった。達成率 60%未満 |
| －：目標値を達成するために実施予定であったが、 <u>新型コロナウイルス感染症の影響で評価できる条件が整わなかった。</u> |

2 全体評価の方法

- ①サービス内容ごとに、サービス評価指標の達成率を合計する。
- ②合計値をサービス内容の指標数で除した平均値を、そのサービス内容全体の達成率とみなす。
- ③サービス内容全体の達成率を、「1」で定めた評価基準に基づき、数値の達成率によって5段階で採点し、全体評価とする。
- ④新型コロナウイルス感染症の影響で達成度に「－」が多く（1施策につき半数以上）、評価不可能な場合は「N」と表記する。

- | |
|---|
| 4：計画どおりに実施でき、一定以上の成果があった。達成率 100%以上 |
| 3：計画どおりに実施でき、一定の成果があった。達成率 80%以上 |
| 2：課題はあるものの、概ね計画どおり実施できた。達成率 60%以上 80%未満。 |
| 1：不十分な点や課題が多く、計画通りに実施できなかった。達成率 60%未満。 |
| N： <u>新型コロナウイルス感染症の影響で達成度に「－」が多く（1施策につき半数以上）、評価不能である。</u> |

- ⑤全体評価も数値の達成率に基づいて採点することになるため、図書館協議会からの外部評価については、サービス評価指標以外の取組なども含めた総合的な意見としてまとめ、「図書館協議会からの意見」として公表する。

サービス内容（１）資料及び情報の収集、提供等

令和2年度末想定市人口 64,000人

令和3年4月1日市人口 65,075人

| サービス評価指標 | 実績(R2) | 目標値 | 達成率 | |
|---------------------|---------|---------|--------|---|
| ①図書購入タイトル数/購入冊数(%) | 86.2 | 90.0 | 95.8% | 3 |
| ②蔵書冊数(所蔵図書冊数) | 706,278 | 710,000 | 99.5% | 3 |
| ③市民一人当たりの蔵書冊数(冊/人) | 10.9 | 11.1 | 98.2% | 3 |
| ④袖ヶ浦市関係資料の受入冊数(冊/年) | 314 | 270 | 116.3% | 4 |
| ⑤年間利用者数(人/年) | 77,507 | 155,000 | 50% | — |
| ⑥市民新規登録者数(人/年) | 536 | 1,200 | 44.7% | — |
| ⑦市民登録率(%) | 39.6 | 60.0 | 66% | — |
| ⑧資料貸出数(点/年)市外含む総計 | 331,988 | 650,000 | 51.1% | — |
| ⑨市民一人当たりの貸出数(点/人) | 5.1 | 10.2 | 50% | — |

◎平均達成率：9項目中4項目の平均達成率102.5%・評価不能5項目

（後期計画におけるサービス内容）

「袖ヶ浦市立図書館資料収集規程」及び「袖ヶ浦市立図書館資料選定基準」に基づき、資料の整備に努めます。

第3次図書館サービス網計画の中で、資料整備については、「人口1人当たり10冊を基本に640,000冊を目標とします。」とうたっています。現在、蔵書冊数は65万冊を越え、前期の目標値は達成していますが、図書館資料については、最新の情報を提供し書架の新鮮さを保つためには継続的な更新が必要であることから、今後も開架資料の5%の更新を目標として、市民に多種多様な学習要求に応えられるように、幅広いタイトル数を購入するよう努めてまいります。

少子高齢化の急速な進行に伴い、図書館の利用についてはこの5か年で、資料貸出総数、新規登録者数等については減少傾向にあります。

図書館としては、利用者により資料に関心を持ってもらうための時宜的な資料展示やテーマ展示、また転入者への利用案内の配布、県立袖ヶ浦高校生に利用案内を配布するほか、今後も図書館資料の情報提供を進め、利用の拡大に努めます。

取組内容

<新規・一部新規・拡充>

新規コーナーの設置・読書案内

- ・勤労者層の利用促進のため、長浦おかのうえ図書館にビジネスコーナーを設置し、ビジネスマナーや資料作成、課題解決に役立つ資料の充実を図った。また、図書館のホームページ「資料案内」にも「ビジネスコーナー」を作成し、図書館だよりやツイッターで周知を行った。11月には市内3図書館全体で「一歩進んだ仕事術！」というテーマの特設コーナーをつくり、仕事に役立つ本の紹介に努めた。
- ・平川図書館に「介護支援コーナー」を設置し、介護予防・介護支援関係の図書の充実を図った。市内社会教育施設等へのポスター掲示、図書館だよりやメールマガジン等でも周知を行った。2月にはホームページ上で「介護を知ろう」というテーマの特設コーナーをつくり、高齢者とその家族にとって関心の高い図書の紹介に努めた。
- ・9月10日～16日の自殺の予防週間にあわせ、中央図書館、長浦おかのうえ図書館において関連図書や相談窓口のチラシを集めたミニコーナーを設置し、ツイッターでも周知した。
- ・図書館の蔵書に興味を持ってもらうきっかけづくりとして、職員が個々のテーマのもとにおすすめ本を紹介する「図書館員のおすすめ図書」のコーナーを10月からホームページで開始した。

館内の環境整備

- ・長期間に及んだ臨時休館を利用して、全館でコーナーやレイアウトの見直しを図った。中央図書館では大型本コーナー、長浦おかのうえ図書館では大活字本コーナーと大型美術書のコーナーを拡充したほか、平川図書館や公民館図書室でも、書架サインの作成やレイアウト変更を行った。特に平川図書館では大活字本や文庫のコーナーの拡張、青少年コーナーや児童コーナーに飾り付けを行うなど大幅なりニューアルを行った。

公民館図書室の利用促進

- ・秋のトショロ月間では公民館図書室では初めての企画として「《ごちそうえほん大集合》食べてみたいごちそうに投票しよう！」を開催したところ、根形図書室で70票、平岡図書室で96票と多数の投票があり、10月～11月の貸出資料点数を令和元年度と比較すると2室合計で670冊の貸出増となり、公民館図書室の利用促進につながった

根形図書室10月～11月貸出点数3,426点（令和元年度3,024点）

平岡図書室10月～11月貸出点数2,015点（令和元年度1,747点）

<継続>

- ・新刊図書の購入を中心に、必要に応じて遡及して購入を行ったほか、郷土行政資料など寄贈の依頼も行い、11,796冊の図書（うち購入11,012冊）を受入れした。一方で情報の古くなった図書は書庫へ編入し、全館の開架書架の図書311,949冊（令和3年3月31日現在）の約3.8%を更新したが、重点施策に掲げた開架図書の更新率5%という目標値に対する達成率は76.0%にとどまった。なお、最新版を購入した旅行ガイド等で旧版でも利用価値があるものは他の館へ移管し、再活用を図った。
- ・地域の高齢化が進行する中で、市民の関心が高く、常に新しい情報が求められる社会福祉と

医学関連の図書を重点的に収集した。社会福祉の分野の図書を全館で187冊収集し、同分野の全開架図書2,409冊の約7.76%を更新したほか、医学・薬学の分野の図書を全館で638冊収集し、同分野の全開架図書10,822冊の約5.9%（一般書のみでは6.06%）を更新した。

- ・中央図書館を中心に郷土資料の拡充に努め、市内3図書館で582冊の郷土資料（うち袖ヶ浦市関連図書314冊）を収集した。
- ・袖ヶ浦市関連の新聞記事見出し一覧を作成し、毎月ホームページ上で公開したほか、市職員向けの掲示板にエクセルによるデータを提供した。また、令和元年度一年間分の記事索引を冊子にまとめ、郷土資料として受入れした。
- ・おすすめ図書のリストを一般向けに2種類、児童向けに4種類作成したほか、パスファインダー（調べ方案内）を一般向けに1種類、児童向けに1種類作成し、教養や調査研究、児童の調べ学習等に資する情報の提供を行った。
- ・夏のトショロ月間において、新型コロナウイルス感染拡大予防のため集会事業を行わない代替として「絵本のおたのしみ袋」を全館で実施し、140袋用意したところすべて貸出された。
- ・秋のトショロ月間では、昨年と同様に大人向けの「本のおたのしみ袋」を平川図書館と公民館図書室で実施し、用意した80袋のうち78袋が貸出された。
- ・1月には、子どもが読書に親しむきっかけづくりとして、書名が分からないように絵本3冊を袋に入れて、ヒントとなるテーマを表に書いた「えほんのふくぶくろ」を実施した。全館で130セットを用意し、すべて貸出された。
- ・市役所の市民課、長浦・平川行政センターにおいて転入者へ図書館の利用案内を配布したほか、袖ヶ浦高等学校の新入生に対して高校生向けに作成した利用案内を配布した。また、ブックスタートでは、幼児向けのおすすめリストとあわせて図書館の利用案内「親子のための図書館・図書室まるわかりMAP」を配布し、利用喚起を図った。

内部評価

○全体評価：N（新型コロナウイルス感染症の影響で評価不能である）

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策に伴う2度の臨時休館があり、開館中もサービスの一部制限、読書普及事業の中止や縮小を行ったことから、年間の利用者数や資料貸出数は前年度を下回った。
- ・約4か月にわたる臨時休館中は新規登録も受付できなかったことから、市民の新規登録者数は536人と、令和元年度の新規登録者数1,229人と比べ大幅に減少した。そのため、10年間未利用により除籍した市民登録者は1,506人と令和元年度の除籍者数1,531人よりやや減ったものの、市民登録率についても前年度より減少した。
- ・長期間の臨時休館を利用して、全館で書架のレイアウトやサインの見直し、特色あるコーナーの拡充等、図書館再開後の利用しやすさにつながるよう改善を図ることができた。
- ・図書館が再開した6月以降は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、入館時に検温等の受付、館内ビデオ視聴等一部サービスの制限、返却資料の消毒等の対策を行った。1月から

は中央図書館と長浦おかのうえ図書館に除菌器を導入し、返却資料の除菌を徹底した。

- ・2度目に臨時休館となった際は、中央図書館、長浦おかのうえ図書館、平川図書館に窓口を設置し、予約資料の受渡しを行ったほか、電話やメールでの未所蔵リクエスト・レファレンス受付を行い、便宜を図った。

○課題

- ・市民の多種多様な学習要求に応え、様々な課題の解決を支援するため、子どもから高齢者まで幅広い年代に対して、図書館から積極的に資料や情報を提供する取組を今後も充実させていく必要がある。特に、20代から50代にかけての、いわゆる勤労世代が図書館を仕事や生活に活用できるような積極的な働きかけが必要である。
- ・様々な事情により図書館への来館が困難な利用者、特に子育て中の世代や高齢者の読書活動を支援する取組が必要である。

○今後の対応

- ・社会的関心の高いテーマを取り上げ、課題解決に役立つ図書館資料を特設コーナーやホームページを通じて紹介していく。特に、20代から50代にかけての年代の市民が仕事や生活に活用できる図書館資料の充実と積極的な紹介を行う。
- ・図書館に来館しなくても図書館の資料を利用できるサービスとして、子育て支援施設や高齢者向けの福祉施設等に向けて団体貸出の周知活動を行う。

外部評価（図書館協議会からの意見）

- ・コロナ禍で臨時休館が長期に及んだが、その期間に市民が利用しやすくなるように書架レイアウト等の見直しを行ったこと、2回目の臨時休館の際には予約資料の貸出を行ったことなどの取組を評価したい。
- ・図書の購入や開架図書の更新を計画的、継続的に行っていることは、書架をリフレッシュする観点からもよいことである。高齢者や妊婦のために書架の一番下の段はなるべく空けておくなど、より利用しやすい書架になるよう一層の配慮をお願いしたい。
- ・社会情勢を判断する中で、少子高齢化だけでなく、デジタル情報社会や携帯ツールの普及とう視点も加えていただきたい。
- ・20代から50代の年代の市民は、より新しく多種多様な情報を必要としており、自らも情報収集を行っている。図書館からの対応については限定的になるおそれがあるため、図書館でも資料費の枠や収集するジャンルを設定するなど効果的な対策を検討していただきたい。
- ・各種のおすすめ図書については、ホームページやツイッターも活用して、積極的に情報提供していただきたい。
- ・「本のおたのしみ袋」などおすすめの本を紹介する企画を通じて、利用の少ない図書にもスポットを当てる機会をつくっていただきたい。

サービス内容（２）社会情勢の変化に対応したサービスの充実

令和２年度末想定市人口 64,000人

令和３年４月１日市人口 65,075人

| サービス評価指標 | 実績(R2) | 目標値 | 達成率 | |
|----------------------------------|---------|-------|--------|---|
| ⑩一日あたりのホームページアクセス件数 (件/日) | 374.0 | 315 | 118.7% | 4 |
| ⑪一ヶ月あたりのWeb予約件数(件/月) | 3,262.3 | 2,250 | 145.0% | 4 |
| ⑫学校図書館への対応 ・団体貸出総冊数(冊数/年)◆ | 2,360 | 3,000 | 78.7% | — |
| ⑫学校図書館への対応 ・出張おはなし会参加者数(人/年)◆ | 2,495 | 5,000 | 49.9% | — |
| ⑬レファレンス件数(件) | 417 | 800 | 52.1% | — |

◆【平成30年11月改定】学校図書館、学校ボランティア活動の充実を勘案し、目標値を変更した。

◎平均達成率：5項目中2項目の平均達成率131.9%・評価不能3項目

(後期計画におけるサービス内容)

①情報化社会への対応

今後も、ホームページの充実を図り、またメールマガジンの発行により、新着資料の情報提供や個々に関心の高い資料情報の提供を行うなど、より利便性の高い情報発信を行っていきます。

②学校図書館への対応

学校図書館への支援については、今後も引き続き、団体貸出、レファレンスサービス、学級文庫への読み物のセット貸出を行うなど学校図書館を通した子どもたちの読書への支援をさらに推進します。また学校を訪問してのおはなし会等を開催し、調べ学習の支援を行います。

③高齢化社会への対応

高齢者にとって、より利用しやすい図書館を目指し、今後も大活字本の提供、朗読CDの積極的な収集提供に努めます。

④関連施設・関係課との連携

他の公共図書館との連携により、市民への資料提供をより一層充実させます。また今後も他の公共図書館、学校図書館、博物館などの教育施設との連携を図り、子育て支援を推進し、図書館利用の促進のため、関係課との連携をより強化していきます。

⑤国際化への対応

国際化が急速に進展し、子どもから大人まで、市民が外国の文化に触れる機会も増大していきます。より外国の文化を理解し、外国人に日本文化を紹介するための外国語資料の充実を図り、外国語による利用案内等を作成します。

⑥職業能力開発の要求への対応

労働を取り巻く環境の変化により就職、転職、能力開発、日常の仕事等で情報を必要とする市民は増加しています。こうした利用者に対応するための資料の収集・提供、適切なレファレンスの実施等、個人の学習ニーズに応える機能を高め、図書だけでなく、就労や資格取得のためのパンフレットやチラシ等による情報提供、インターネットを活用した情報や、法律・経済関連のデータベースの提供を行います。

⑦レファレンスサービスの充実と利用促進

レファレンスサービスについては、情報量が増大し、多種多様となっている現代社会において、課題解決のための支援はますます重要になっています。市民の課題解決支援に対応するために必要な図書資料及び電子図書の提供に努めます。

取組内容

<新規・一部新規・拡充>

ホームページの充実

- ・読んだ本や読みたい本を登録できるMy本棚など、機能が大きく向上したマイページについて図書館のホームページに説明ページを設けたほか、ツイッターでもWeb予約のPRを行い、Web予約件数は前年度より著しく増加した。

学校との連携

- ・1度目の臨時休館中は、学校も臨時休校となっていたことから、学校への団体貸出についても休止したが、2度目の臨時休館中には、図書流通システムを通じた学校への団体貸出を引き続き実施したほか、学校司書が図書館を利用できないことから、開架書架の図書も図書流通システムで学校へ届けるなどの対応を行い便宜を図った。
- ・学校との連携を充実させ、昭和中学校図書委員が中央図書館児童室に、平川中学校図書委員が平川図書館児童コーナーに、袖ヶ浦高校の図書委員が中央図書館青少年コーナーにそれぞれおすすめ図書の展示を行い、同世代の利用につなげることができた。
- ・昭和小学校1年生から5年生までの各学年が作成した「けむりのきしゃ」「おはなし美術館」「生き物ブック」「昭和小から発信！～広めよう千葉県の魅力～」 「米新聞」などの作品を中央図書館に関連本とともに展示した。また、昭和中学校3年生の「GO TO おくのほそ道」の展示を中央図書館で行い、小中学生と保護者の来館の機会を創出した。
- ・袖ヶ浦高校図書委員によるおはなし会を例年8月に開催していたが、感染予防のためおはなし会を見合わせていたことから時期を改め、12月にクリスマスおはなし会として実施した。

高齢者の利用促進

- ・長期間の臨時休館を利用して、長浦おかのうえ図書館と平川図書館の大活字本コーナーを拡充したほか、朗読CDの紹介ポスターとチラシを作成し、ツイッターでもPRした。

館内の環境整備

- ・長浦おかのうえ図書館では書架にピクトグラム（絵文字）による案内を掲示したところ、利用者アンケート等でも好評であった。

就職等に関する情報提供の充実

- ・長浦おかのうえ図書館に職業や資格の紹介に関連する図書、パンフレットを集めたコーナーを新たにつくった。

<継続>

- ・メールマガジン、ツイッターを活用して、図書館資料の紹介や読書普及事業のお知らせだけでなく、新型コロナウイルス感染防止の臨時休館のお知らせなど、即時性の高いタイムリーな情報を発信した。
 - 令和2年度末メールマガジン登録者数189人（令和元年度末181人）
 - 令和2年度末ツイッターフォロワー数554人（令和元年度390人）
- ・新型コロナウイルス感染拡大予防対策を講じて、7月から市内保育所、小中学校等での出張おはなし会を再開した。
- ・館内閲覧用の電子図書として朝日新聞、日本経済新聞記事のデータベース、国立国会図書館デジタル化資料送信サービスを導入し、市民の調査研究支援に活用した。
 - 日本経済新聞記事データベース閲覧件数50件（令和元年度 閲覧件数90件）
 - 朝日新聞データベース閲覧件数58件（令和元年度 閲覧件数60件）
 - 国立国会図書館デジタル化資料閲覧件数21件（令和元年度 閲覧件数31件）

内部評価

○全体評価：N（新型コロナウイルス感染症の影響で評価不能である）

- ・マイページなどの新機能について周知することで、図書館ホームページのアクセス件数は大幅に増加した。また、コロナ禍でも図書館に来館せずにいつでも利用できるサービスとして、Web予約件数は大幅に増加した。
 - 1日あたりのホームページ総ページビュー数21,710.7件（令和元年度16,575.8件）1か月あたりのWeb予約件数3,262.3件（令和元年度2,851.8件）
- ・1度目の臨時休館中は学校も臨時休校となり、学校への団体貸出についても休止したことが影響して、学校への年間の団体貸出実績は前年度より減少した。
- ・新型コロナウイルス感染拡大予防対策を講じて、市内保育所、小中学校等での出張おはなし会を7月から再開したが、学校が5月まで臨時休校となり、学校再開後も朝の読書の時間が減ったことも影響し、出張おはなし会の依頼件数は前年度より大きく減少した。
- ・長期間の臨時休館があったほか、開館中も滞在時間を2時間以内と制限したことから、レファレンスの受付件数や館内データベースの閲覧件数は前年度より減少した。

○課題

- ・WebOPACのおすすめ図書リストや蔵書検索からでは、借りてみたいと思う本を見つけるのは難しい面がある。
- ・ホームページからのレファレンスの受付は、図書館へ来館する時間的余裕がない市民に対するサービスとしてニーズがあると思われるが、認知度が低い。
- ・長浦おかのうえ図書館に導入したピクトグラムによる書架案内は、ユニバーサルデザインとし

て有効であり、子どもや高齢者、外国人などにも分かりやすいので、他の館にも導入するべきである。

○今後の対応

- ・おすすめ図書リストや蔵書検索だけではなく、ホームページ上で様々な所蔵資料の情報を取得できるように、「おすすめ図書」コーナーの一層の充実を図る。
- ・ホームページからの未所蔵資料のリクエスト、レファレンスの受付については引き続きホームページやツイッター等を通じて情報発信を行っていく。
- ・中央図書館、平川図書館の書架にもピクトグラムによる書架案内の表示を導入する。

外部評価（図書館協議会からの意見）

- ・学校にタブレット端末が配布されたことから、子どもたちが図書館の蔵書検索の方法などを習得できるよう指導することを検討していただきたい。
- ・コロナ禍で図書館の対面サービスが減少したが、一方でWeb予約の件数は大きく伸びており、インターネットを通して利用できる図書館サービスを拡充していく契機として活かしていただきたい。
- ・レファレンスは図書館の質をはかるものであり、重要な役割を担っているので、対応した事例をデータベース化するとともに共有し、職員だれもがレファレンスツールとして利用できる環境を構築することを検討していただきたい。
- ・おすすめ図書リストやパスファインダーを毎年新しく作成することは、職員のレベルアップにもつながることであり、これから継続して取り組んでいただきたい。
- ・誰でも利用できる図書館環境を整備するため、全館の案内掲示等へのユニバーサルデザイン導入や多言語表示を期待したい。

サービス内容（3）利用者に応じたサービス

令和2年度末想定市人口 64,000人

令和3年4月1日市人口 65,075人

| サービス評価指標 | 実績(R2) | 目標値 | 達成率 | |
|---------------------------------------|--------|--------|--------|---|
| ⑭児童サービスの充実 ・ブックスタートにおける本の配布率(%) | 33.6 | 100 | 33.6% | — |
| ⑭児童サービスの充実 ・おはなし会参加者数[館内・館外合計](人)◆ | 4,058 | 12,000 | 33.8% | — |
| ⑭児童サービスの充実 ・お薦め本リストの発行(回/年) | 6 | 4 | 150% | 4 |
| ⑮青少年サービスの充実 ・お薦め本リストの発行(Y・A) | 1 | 1 | 100% | 4 |
| ⑮青少年サービスの充実 ・お薦め本リストの発行(ジュニア) | 1 | 1 | 100% | 4 |
| ⑯高齢者サービスの充実 ・大活字本の貸出冊数(冊/年) | 2,553 | 5,000 | 51.1% | — |
| ⑰障がい者サービスの充実 ・宅配サービス(冊/年) | 167 | 350 | 47.7% | — |
| ⑱図書館ボランティアの育成(名) | 77 | 70 | 110% | 4 |
| ⑲来館者満足度 ・利用者アンケート「図書館全体の満足度」(%) | 77.7% | 75.0 | 103.6% | 4 |

◆【平成30年11月改定】学校図書館、学校ボランティア活動の充実を勘案し、目標値を変更した。

◎平均達成率：9項目中5項目の平均達成率 112.7%・評価不能4項目

(後期計画におけるサービス内容)

①子どもたちのために

今後も子どもたちが読書の楽しさを体験し、本に親しむことのできる読書環境の充実に向けて、学校、幼稚園、保育所等との連携を図りつつ、「袖ヶ浦市子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもたちの発達段階に応じた、わらべうたであそぼう、えほんのへや、おはなし会を開催するとともに、新たに健康推進課の4か月児教室において、ブックスタートを実施し、乳児期からのサービスを提供します。

②高齢者のために

今後も、高齢者に配慮した施設の整備を図り、大活字本などの資料の充実努めます。また、社会福祉協議会、高齢者クラブ等の関係機関・団体との連携を図りながら、映画会、講習会等の読書普及事業の実施、図書館利用の際の介助など、きめこまかな図書館サービスの提供に努

めます。

③図書館利用に障がいのある人のために

宅配サービス等の利用案内を引き続き広報等でPRに努めると共に、目の不自由な方へのサービスについても、要望があった場合には的確に対応できる体制を整えます。

④主体的に学ぶ市民のために

市民が読書に親しむ取組として、図書館サークルやボランティアの協力を得ながら、市民に親しまれる図書館を目指し、あらゆる世代に対し図書館の利用や読書に結びつくよう、各種講座・講演会、名画鑑賞会、資料展示等を開催していきます。また、公民館や博物館等の社会教育機関、学校、民間の関係機関との取組んで共催事業等、多様な学習機会の提供に努め、市民の情報活用能力の向上を支援するため、学習機会の提供に努めます。

- a. 余暇活動支援 b. 学習生活及び調査研究支援
- c. IT支援 d. 行政支援 e. ビジネス支援

⑤サークル活動をする人のために

市民が図書館資料を共有する中で交流し、暮らしに根ざした自主的な活動を展開していくことは、地域の文化活動を豊かにします。図書館では市民の文化活動、コミュニケーション活動の拠点として、図書館資料、施設を利用して活動するサークルに対して、その活動を支援します。

⑥ボランティア活動をする人のために

市民のニーズにあった事業を展開していくために、市民の知識や技術を生かした市民協働の図書館運営を目指し、新たに展示、映画会事業をはじめ、様々なボランティアを養成します。

取組内容

<新規・一部新規・拡充>

子どもと保護者への利用喚起

- ・臨時休館明けには積極的に「児童コーナー」や「幼児絵本・育児コーナー」を紹介するツイートを積極的に行い、利用喚起を図った。
- ・中央図書館、長浦おかのうえ図書館で新型コロナウイルス感染症拡大予防対策として、年齢別の絵本セット「すぐに借りて帰りたい人のためのおすすめ絵本セット」を作った。2度目の臨時休館中には、予約資料の受取りに来館した市民が借りられるように、受付窓口の前に絵本セットのコーナーを作り、貸出を行った。

児童サービスにおけるコロナ対応

- ・定員を減らす、事前予約制にするなどの新型コロナウイルス感染症拡大予防対策を講じて、9月から中央・長浦、10月から平川で館内おはなし会を再開した。出張おはなし会についても市内保育所、小中学校等で7月から再開した。子ども映画会、わらべうたであそぼう、すきすき絵本タイムについては引き続き開催を見合わせている。また、子育てや子どもの読書に関心のある市民も対象に加え、12月に「子どもの本の講座」を開催し、「この絵本をあの子へ」をテーマに講演を行った。
- ・ブックスタートについては、会場となる4か月児教室が開催されず、ブックスタートが開催

できないため、中央図書館だけでなく長浦おかのうえ図書館、平川図書館、すこやか相談の会場でもブックスタートパックの配布を行った。ブックスタートボランティア養成講座（全3回）を開催し、11名が新規に登録した。

- ・夏のトショロ月間では新型コロナウイルス拡散防止のため参加型の事業は開催せず、展示型の企画を行ったほか、中央図書館では昭和小学校との展示企画、長浦おかのうえ図書館では蔵波中学校美術部による作品展示を行った。また、個人で参加できる企画として、全館で「絵本のおたのしみ袋」「おしえて！きみのすきな本」、平川図書館、根形・平岡公民館図書室では「読書感想画を描こう！」、さらに根形・平岡公民館図書室では「図書館で『宝さがし』」などの事業を行い、参加者数は前年度より大幅に減少したものの、開催方法を工夫して全体では601人の参加となった。（令和元年度2，163名）

<継続>

- ・「こどもの読書週間記念行事」として0歳から小学生の子どもを対象とするスタンプラリーを4月から5月に行う予定であったが、臨時休館になったため、読書週間（10/27～11/9）の前後に開催する秋のトショロ月間（10/24～11/23）に合わせ、「秋のこどもスタンプラリー」として全館で開催した。期間中は貸出冊数を拡大してスタンプラリーを行い、439名の参加があった。また、「秋のトショロ月間」期間内の館内のおはなし会では44名、「青空かみしばい劇場」では53名など多数の参加者があった。
- ・「秋のトショロ月間」では、中央図書館において「俊寛をめぐる能と浄瑠璃」をテーマに文芸講座を開催し、専門の講師を招いて全4回の連続講座を開催した。長浦においては県の金融広報アドバイザーを講師に迎え、高齢者を対象に、暮らしに役立つ生活講座「今、気をつけたい！悪質詐欺について」を開催した。また、社会教育推進企画として「歌舞伎図書館座」を開催し、社会教育推進員の解説付きで「勸進帳」の上映を行った。他の参加型の事業についても開催方法を工夫し、全体では前年度とほぼ変わらない1,652名の参加があった。（令和元年度1，676名）
- ・1月には、子どもが読書に親しむきっかけづくりとして、書名が分からないように絵本3冊を袋に入れて、ヒントとなるテーマを表に書いた「えほんのふくぶくろ」を実施した。
- ・高齢者が利用しやすい資料として、中央、長浦、平川で朗読CDを35点（23タイトル）、大活字本を100冊（47タイトル）購入した。
- ・障がい者サービスとして、心身の障がいのため来館が困難な市民に対して宅配サービスを行い、個々の利用者が希望するジャンルの図書リストを作成するなどきめ細かく対応した。
宅配利用登録者 10名・貸出点数167点（令和元年度10名・271点）
うちデジ利用者 1名・貸出53点（令和元年度1名・63点）
- ・障がい者サービス、宅配サービスの周知を図り、民生委員に依頼して長浦・蔵波地区でチラシの配布を行った。
- ・名画鑑賞会については新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドラインを作成し、感染対策を行うことにより9月より中央図書館・長浦おかのうえ図書館で再開した。映画会ボランティアがおすすめする「旅情が味わえる作品」の見どころやおすすめポイントを記したチラシを作成・配布し、ボランティアが描いたナイアガライラストも好評であった。

- ・図書館ボランティア総会を9月に開催し、ボランティア相互の交流を図るとともに、図書館サービスや読書普及事業について意見交換を行った。
- ・図書館利用者アンケートを実施し、その結果を報告書にまとめたほか、自由意見欄に書かれた意見から主なものを取り上げ、Q&A形式にまとめて館内で掲示した。

内部評価

○全体評価：4（計画どおりに実施でき、一定以上の成果があった）

- ・長期間の臨時休館があったほか、読書普及事業を再開してから定員を減らしたり事前予約制にするなどの新型コロナウイルス感染拡大予防対策を講じたほか、対策を講じることが困難な事業については実施を見合わせたため、おはなし会や映画会等の開催回数、参加人数ともに減少した。

館内おはなし会実績 19回・244人（令和元年度131回・2,306人）

出張おはなし会実績 136回・3,814人（令和元年度349回・10,453人）

映画会実績 6回・107人（令和元年度57回・3,331人）

読書普及事業参加者総数6,605人（令和元年度20,418人）

- ・子どもの年齢別のおすすめ図書リストは計画どおり作成し、配布することができた。
- ・長期間の臨時休館、新型コロナウイルス感染予防対策に伴う読書普及事業の中止やサービスの一部制限の影響があり、高齢者や障がい者を対象としたサービスの実績は昨年度を下回った。
- ・ブックスタートボランティア養成講座、おはなし会ボランティアスキルアップ講座は計画どおり実施し、ボランティアの研修や養成を図ることができた。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策、緊急事態宣言の臨時休館により事業数が減少したため、社会教育推進員や図書館ボランティアの活動回数も減少した。

社会教育推進員 13名・図書館ボランティア 77名（令和元年度13名・71名）

社会教育推進員・図書館ボランティア活動回数 196回（令和元年度539回）

○課題

- ・ブックスタートについては、コロナ禍の中で4か月児教室が中止となったことにより、対象者の多くが参加する場所がなくなってしまったため、図書館3館でもブックスタートパックの配布を行ったが、配布できない対象者が多数あったので、より多くの対象者にブックスタートを実施する機会を設けることを検討する必要がある。
- ・ブックスタート事業の対象は市内在住の1歳未満のすべての子どもであるため、その保護者への周知方法を検討する必要がある。
- ・活動に必要な人員を確保するため、新たなおはなし会ボランティアを養成する必要がある。
- ・高齢者が読みやすい資料として大活字本を継続して購入しているが、大活字本の貸出冊数は減少した。（令和元年度3,863冊→令和2年度2,553冊）
- ・図書館へ来館することが困難な障がい者を対象に実施している宅配サービスは、新規登録は2名あったものの、4月～5月の臨時休館中は宅配サービスを停止し、その後もコロナ禍の

中で依頼を控える利用者もあり、利用実績は減少した。

宅配サービス延べ利用者数37人・貸出167点（令和元年度57人・271点）

○今後の対応

- ・ブックスタートの実施機会を増やすため、4か月児教室で行っていたブックスタートを図書館でも行うこととする。さらに、市内在住の1歳未満の子どもを持つ保護者への周知を図る。
- ・おはなし会ボランティア養成講座初級編を開催し、ボランティアの増員を図る。募集する際は、若い人にも興味を持ってもらえるよう、館内掲示だけでなくホームページやツイッターでも広報する。
- ・大活字本や朗読CD等、高齢者が利用しやすい資料を引き続き積極的に収集し、高齢者を対象にした講座を開催する。
- ・社会福祉協議会等の関係機関を通じて、長浦・蔵波地区以外へも障がい者サービスについて周知を図っていく。

外部評価（図書館協議会からの意見）

- ・図書館の読書普及事業については、市の広報やツイッターだけでなく、様々な機会や方法を工夫して広く周知するよう努めていただきたい。また、ブックスタートは健診会場での実施など、より多くの対象児に届けることを検討していただきたい。
- ・高齢化社会への対応として、医療・介護・健康といったテーマだけでなく、高齢者が社会に参加し、寄与できるようなジャンルについても資料やサービスの充実に取り組んでいただきたい。
- ・大活字本と朗読CDなど、資料の種別や分類にとらわれない、利用者ニーズに沿った資料の配置についても工夫していただきたい。
- ・高校生が絵本の読み聞かせを体験できる機会は貴重であり、将来の進路として司書を考える高校生のために、高校生向けの講座についても検討していただきたい。